



吹田市

文化財ニュース

No.28

平成19(2007)年3月30日

〒564-0001

吹田市岸部北4丁目10番1号

吹田市立博物館

TEL. (06) 6338-5500

FAX. (06) 6338-9886

<http://www.suita.ed.jp/hak/index.html>

吹田市指定有形文化財が新たに3件



▲中西家住宅（庭園からみた主屋）

平成18（2006）年4月20日に吹田市文化財保護審議会が開催され、その答申により、平成18年5月23日付けで、山田伊射奈岐神社本社本殿、中西家住宅、五反島遺跡出土鏡の3件が、吹田市指定有形文化財として新たに指定されました。詳しくは6・7頁をご覧ください。



▲五反島遺跡出土鏡

平成18（2006）年度の主な文化財保存事業

平成18（2006）年度吹田市では、江戸時代から明治時代にかけての大型民家建築である亘家住宅（内本町2丁目）と、昭和時代前期に改築された住宅建築である岡田家住宅（千里山西5丁目）が、平成18（2006）年10月18日付けをもって、国の文化財登録原簿に新たに登録されました。これで、吹田市内の国登録有形文化財は6件となりました。また、平成18（2006）年5月23日付けで、中西家住宅、山田伊射奈岐神社本社本殿、五反島遺跡出土鏡の3件が、新たに吹田市指定有形文化財に指定されました。中西家住宅は、すでに国の登録有形文化財としても登録されており、平成19（2007）年1月22日には吹田市に寄附されました。



▲能勢町人形浄瑠璃（旧西尾家住宅イベント）

吹田市では、歴史的建造物の保存・活用事業としまして、平成17（2005）年10月1日から旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）を一般公開しています。旧



▲中秋の名月観月会（旧西尾家住宅イベント）

西尾家住宅では、ボランティアガイドによる建物の説明をはじめ、コンサートや展示など様々なイベントを行っており、平成18（2006）年度には、貴志康一をしのぶサロンコンサート、中秋の名月観月会、エキゾチックコンサート～インド音楽、能勢町人形浄瑠璃などのイベントを開催しました。



▲六地藏道標の環境整備

この他の文化財事業としては、埋蔵文化財の調査では、垂水南遺跡や蔵人遺跡などの埋蔵文化財包蔵地及びその周辺地において、23件の確認・試掘調査を実施するとともに、58件の立会を行いました（2月末現在）。また、文化財調査として、大阪府立布施工業高校の東野良平氏に依頼して、市内における近世の神社建築についての調査を実施しました。この他、南高浜町所在の江戸時代の道標である六地藏道標について、その環境整備工事を行いました。

平成18（2006）年8月5日から9月10日にかけては、博物館での夏休み特別展示「吹田の景観を掘りおこす」におきまして、これまで博物館内で整理を進めてきた蔵人遺跡や（財）大阪府文化財センターが平成17（2005）年度に調査を行った片山荒池遺跡の出土資料を展示し、新市指定有形文化財である山田伊射奈岐神社本社本殿、中西家住宅、五反島遺跡出土鏡などの紹介を行いました。また、発掘調査や資料整理の仕事の流れを紹介するパネル展示も行いました。

今年度の歴史講演会は、平成19（2007）年3月に「仏教美術の源流を探る－アジャクター石窟から法隆寺へ－」をテーマにして、関西大学教授米田文孝氏に講演していただきました。

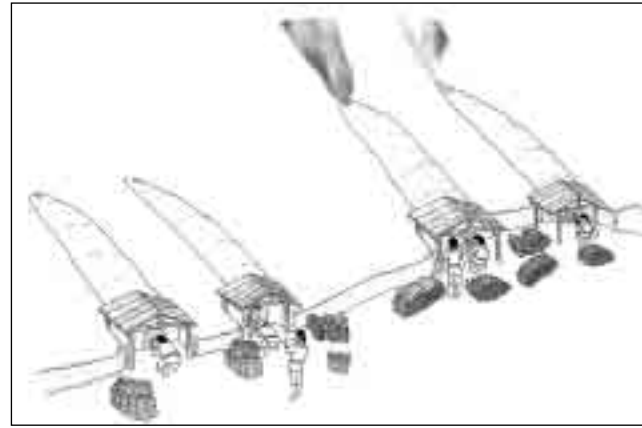
また、吹田市では、吹田市文化財保護条例によって指定および登録された文化財の保存・修理等に対して補助金を交付しています。平成18（2006）年度は、市指定有形民俗文化財である「神境町地車」・「川面町地車」の地車修理および「六地藏地車」の保管庫防災工事に対してと、市登録有形民俗文化財である「山田伊射奈岐神社太鼓神輿」・「泉殿宮神楽子」・「権六おどり」に対して、その保存と活用を図ることを目的に補助金を交付しました。



▲夏休み特別展示

古代の瓦生産工房を訪ねてみませんか

博物館のある紫金山公園とその周辺には史跡吉志部瓦窯跡、史跡七尾瓦窯跡といた吹田市を代表する古代の瓦生産遺跡があります。七尾瓦窯跡は奈良時代に難波宮の再整備に際してその宮殿に使用する瓦を焼成し、吉志部瓦窯跡は平安京の造営に際して宮殿に使用する瓦を焼成した窯跡です。また、吉志部瓦窯跡の南側に広がる工房跡の中心的な地点が大阪府の史跡に指定されています。奈良時代及び平安時代の宮都造営に関わる瓦生産がほぼ同一の地で行われている例はほとんどなく、この地域の歴史を考える上でとても興味深いものです。これらの遺跡は説明板等が整備されており、博物館には実物大の窯の模型や出土した瓦を展示しています。ぜひ古代の歴史を訪ねてお越し下さい。



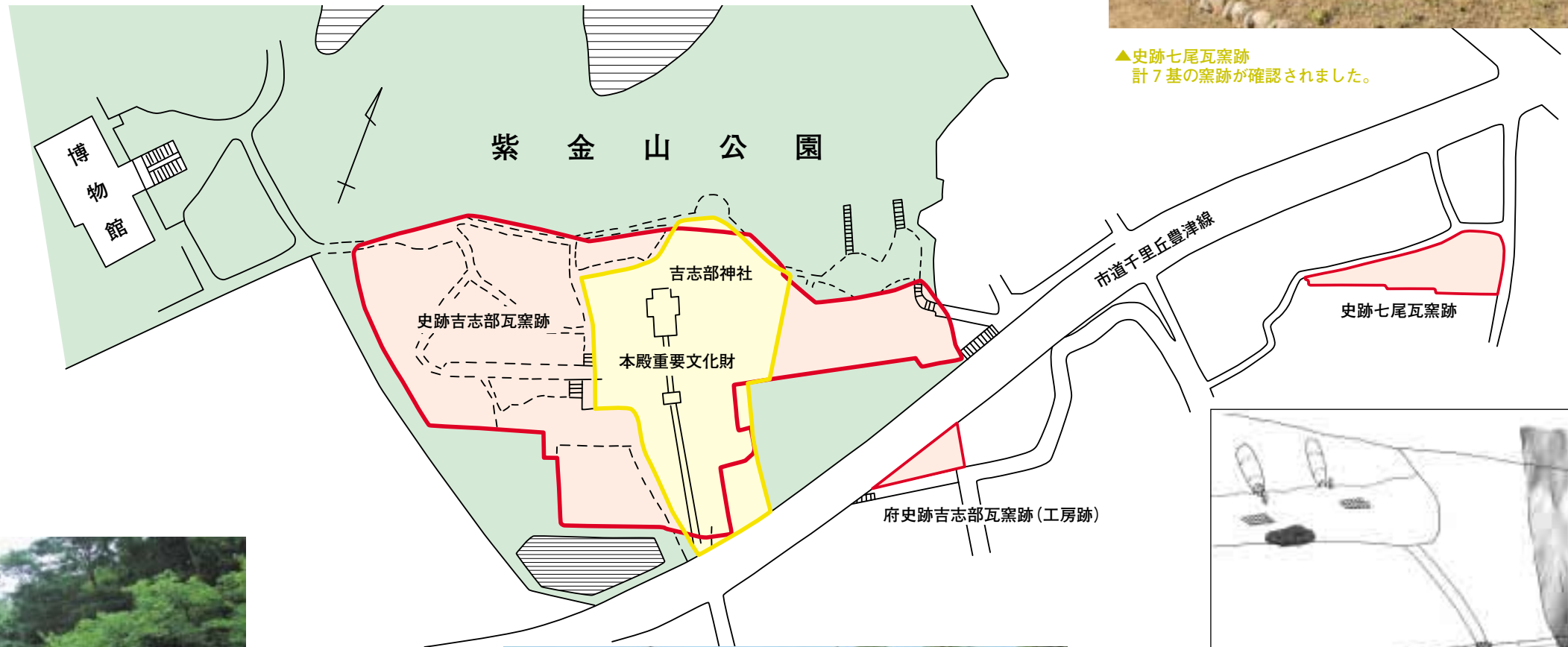
▲七尾瓦窯跡での瓦焼成風景



▲史跡七尾瓦窯跡
計7基の窯跡が確認されました。



▲博物館
古代の様々な窯跡の模型

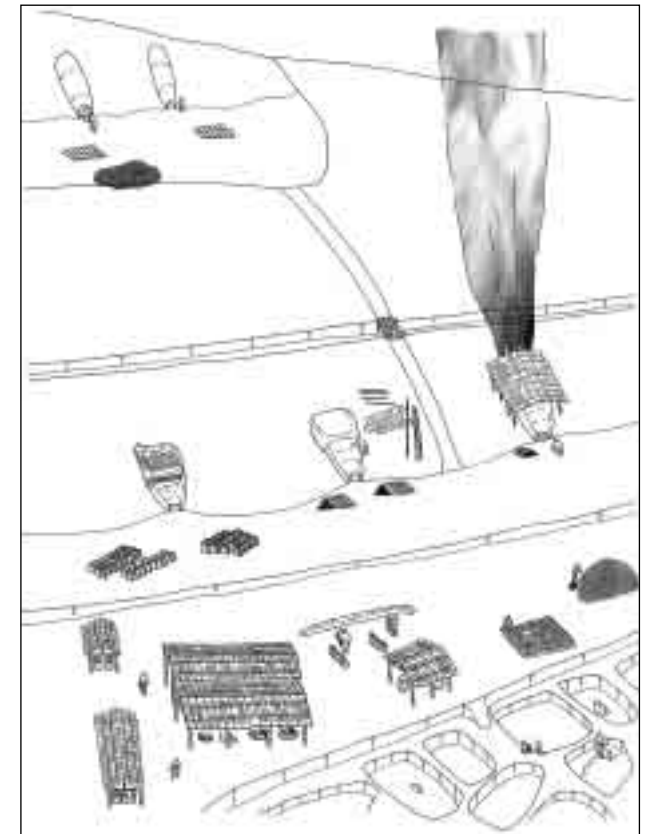


史跡吉志部瓦窯跡（紫金山公園）
計13基の窯跡が確認されました。

府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）
建物跡等が確認されました。



吉志部瓦窯跡での瓦生産風景



☆阪急バス 七尾西・岸部・佐井寺北下車。 車は博物館の駐車場をご利用下さい。

新指定の吹田市指定有形文化財

平成18（2006）年5月23日付けで、3件の文化財が新たに吹田市指定有形文化財に指定されました。

中西家住宅

中西家住宅は、江戸時代後期の住宅建築で、すでに国の登録有形文化財に登録されています。今回指定された建物は、主屋、長屋門、勘定部屋棟、内蔵、土蔵、キザラ、井戸屋、納屋からなり、文政9年の墨書銘がある木槌、天保5年、天保6年、明治33年の各屋敷図、平成7年ツシニ階平面図、平成8年設計図を含めて指定されました。平成19（2007）年1月22日に中西家より吹田市に寄附していただいたことから、今後、公開を含めその保存活用を進めます。



▲中西家住宅（主屋表土間）



▲中西家住宅（庭園からみた内蔵・長屋門）

山田伊射奈岐神社本社本殿

山田伊射奈岐神社は、山田東2丁目に所在します。10世紀に編纂された『延喜式神明帳』にその名を記す、いわゆる式内社です。今回指定された現本殿は、17世紀後期に建築されたと考えられています。その構造は、全国的にも数少ない五間社流造で、屋根は銅板葺（もと檜皮葺）、正面に千鳥破風、軒唐破風をつけ、切石積の基壇上に東向きに建てられています。臺股・木鼻などの細部や妻飾に質の高い彫刻が施されており、建築史において江戸時代中期を代表する社殿と評価されます。



▲山田伊射奈岐神社本社本殿

五反島遺跡出土鏡

五反島遺跡出土鏡は、昭和61（1986）年度に実施した発掘調査において、平安～鎌倉時代の河道跡から出土したものです。鏡の背面には、中央の鈕をはさんで左右に鳳凰、上に麒麟、下に狻猊という伝説上の瑞鳥、瑞獣のほか、草花状の図様（瑞花）が配されています。文様からこの鏡を「瑞花双鳳麒麟狻猊文鏡」と称しています。製作年代は8世紀とみられ、中国唐代の船載鏡の可能性があり、出土状況から河をめぐる祭祀に用いられた、いわゆる水中投入鏡であると考えられています。五反島遺跡出土鏡は、発掘調査で出土状況が明らかな大阪府下唯一のもので保存状態が良く、古代の祭祀の実態を解明する上で重要な資料です。



▲五反島遺跡出土鏡（出土状況）

お知らせ－文化財ニュースの発行休止

吹田市では、昭和53（1978）年以來、ほぼ毎年度文化財ニュースを発行し、吹田市の文化財にかかわる情報をお伝えしてきました。それは今号でNo.28を数えます。創刊号である文化財ニュースNo.1をみますと、千里市民センターに郷土資料展示コーナーが設けられたことが紹介されています。その後、平成4（1992）年には博物館が開館し、文化財情報を発信する環境は大きく変化してきました。博物館では、文化財ニュースとは別に博物館だよりを発行し、博物館の展示にかかわる情報を中心に紹介していますが、平成19（2007）年度からは、文化財ニュースと博物館だよりを統合して、よそおいを新たにした情報誌を発行することになりました。文化財ニュースは、今回で一旦最終号となります。



▲No.1



▲No.2



▲No.7



▲No.12



▲No.15



▲No.20